

「基礎研究医養成活性化プログラム」における工程表

申請担当大学名	滋賀医科大学
連携大学名	京都府立医科大学、大阪医科薬科大学
事業名	地域で活躍するForensic Generalist, Specialistの育成

① 本事業終了後の達成目標

達成目標	本事業では、死因究明及び身元確認に従事する人材および法医学に関する知見・能力を活用して社会に貢献できる実地臨床医師・歯科医師を養成する。すなわち、5年間で7人以上の大学院履修者、22人以上のインテンシブコース修了者を養成する。そして、プログラム修了者の中から、地域における法医関連実務や災害時に対応できる医師・歯科医師を22人以上確保する。プログラム修了者が死因究明や法医学に派生した地域の施策に貢献することで、地域のヘルスプロモーションおよびセーフティプロモーションの推進を図る。
------	---

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
インプット ・ プロセス (投入、 入力、 活動、 行動)	定量的なもの	・令和4年度開講カリキュラムの履修生募集開始 (Forensic Physician 養成コース1名、Forensic Specialist養成コース1名) ・インテンシブコース開設説明会の実施 (1回)	・Forensic Physician 養成コース新規受入れ: 1名 (医師) ・Forensic Specialist養成コース新規受入れ: 1名 (医師) ・Police Doctor 養成コース (インテンシブ) 新規受入れ: 6名 (医師、歯科医師)	・Forensic Dentist 養成コース新規受入れ: 1名 (歯科医師) ・Police Doctor 養成コース (インテンシブ) 新規受入れ: 6名 (医師、歯科医師)	・Forensic Physician 養成コース新規受入れ: 1名 (医師) ・Forensic Specialist養成コース新規受入れ: 1名 (医師) ・Police Doctor 養成コース (インテンシブ) 新規受入れ: 5名 (医師、歯科医師)	・Forensic Dentist 養成コース新規受入れ: 1名 (歯科医師) ・Forensic Specialist養成コース新規受入れ: 1名 (医師) ・Police Doctor 養成コース (インテンシブ) 新規受入れ: 5名 (医師、歯科医師)
	定性的なもの	・ホームページ作成 ・講義概要の作成 ・連携校・連携機関との打合せ	・ホームページの運用 ・講義概要の作成 ・連携校・連携機関との協力関係促進 ・年度評価の実施	・ホームページの運用 ・講義概要の作成 ・連携校・連携機関との協力関係促進 ・年度評価の実施	・ホームページの運用 ・講義概要の作成 ・連携校・連携機関との協力関係促進 ・年度評価の実施	・ホームページの運用 ・講義概要の作成 ・連携校・連携機関との協力関係促進 ・年度評価の実施
アウトプット (結果、 出力)	定量的なもの	・履修生決定 (Forensic Physician 養成コース1名、Forensic Specialist 養成コース1名) ・インテンシブコース開設説明会の参加者数 (20名)	・インテンシブコース (1期生) 6名修了	・インテンシブコース (2期生) 6名修了	・インテンシブコース (3期生) 5名修了	・インテンシブコース (4期生) 5名修了 ・Forensic Physician 養成コース (1期生) 1名修了 ・Forensic Specialist養成コース (1期生) 1名修了
	定性的なもの	・ホームページによる情報発信 ・主幹・連携校でプログラム実施に向けたシミュレーション実施	・ホームページによる情報発信 ・講義概要の見直しによる品質向上 ・連携校・連携機関との協力関係強化 ・評価委員会開催による次年度に向けた改善点の確認	・ホームページによる情報発信 ・講義概要の見直しによる品質向上 ・連携校・連携機関との協力関係強化 ・評価委員会開催による次年度に向けた改善点の確認	・ホームページによる情報発信 ・講義概要の見直しによる品質向上 ・連携校・連携機関との協力関係強化 ・評価委員会開催による次年度に向けた改善点の確認	・ホームページによる情報発信 ・講義概要の見直しによる品質向上 ・連携校・連携機関との協力関係強化 ・評価委員会開催による次年度に向けた改善点の確認
アウトカム (成果、 効果)	定量的なもの					
	定性的なもの	・本教育プログラムの幅広い周知	・本教育プログラムの幅広い周知 ・基礎的な死因究明等の知識・技能を身に付けた医師・歯科医師の輩出	・本教育プログラムの幅広い周知 ・基礎的な死因究明等の知識・技能を身に付けた医師・歯科医師の輩出	・本教育プログラムの幅広い周知 ・基礎的な死因究明等の知識・技能を身に付けた医師・歯科医師の輩出	・本教育プログラムの幅広い周知 ・基礎的な死因究明等の知識・技能を身に付けた医師・歯科医師の輩出 ・法医学に関する知見や能力を備えた臨床医の輩出及び法医学の専門医の輩出

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	常に先進的・革新的な取組内容となるよう自己点検・評価のみならず、医療現場・自治体等のニーズを取り入れるための努力を欠かさないこと。	代表校である滋賀医大では地域社会及び行政との連携をもとに死因究明や法医学に関する臨床医学にたずさわっている。すなわち、県保健医療福祉部、県警察本部、県医師会、県歯科医師会等とは定期的な交流がある。また、連携校である京府医大及び大阪医薬大も、府警察本部や子ども家庭相談センターと実務を共にしている。したがって、これらの機会において、医療現場や自治体のニーズを確認し、十分に反映できるよう努める。
②	代表校のみならず連携校も含め、長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は、成果の波及とともに更に発展的な取組として実施できるよう工夫して取り組むこと。	本プログラムの目的は、法医学の知見・能力を活用できる臨床医及び死因究明等に優れた知識・技能を有する専門家を養成し、地域に貢献することである。長期的には北摂京滋地区における死因究明、被虐待児(高齢者)の診察、災害時等に対応できる医師を継続的に確保することが目標である。そのために、3校における教員ポスト及び本プログラム終了後も継続して確保される滋賀医大のポストを有効利用して人材育成を図る。さらに、本プログラム終了後も、死因究明や事故や事件の予防に向けて地域社会と医療者が連携した取り組みが行えるようなシステム構築を検討していく。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点)	対応方針
3大学とも「地域で活躍する医療従事者の養成」をミッションとしているが、「質の高い研究医の育成」との関連がやや不明確である。また、「矯正医療」について多く述べられているが、このプログラムの目的からやや外れているように思われる。	代表校では地域を挙げた死因究明体制への取り組みを継続して行っており、子どもの死因究明体制整備モデル事業、外因死遺族に対する心のケア相談窓口、性暴力被害者総合ケアワンストップ等の実践といった、派生する臨床実務をこなしている。すなわち、日常の法医実務に加えて先進的で特色ある取り組みを実践できる。また、連携3校は、互いの専門性を補完できるため、それぞれが最先端の内容を教育できることから、専門的視点で研究にも従事できる。したがって、質の高い研究医が養成できると考える。また、矯正医療であるが、対象者の多くは乱用薬物使用者、非虐待者、自傷及び他害行為経験者である。したがって、矯正医療の実践においてはgeneral physicianとしての実践能力に加え、犯罪学、外傷学、中毒学などの幅広い知識を有する。まさに、法医学に関係する知識を活かした実践の場と考えられている。すなわち、本プログラム修了者が十分に活躍できる場である。
Forensic specialist の教育コースでのリサーチマインドの内容や、当該コースでのキャリアパスの構想、特にポジションの確保が不明瞭である。今回のプログラムの補助期間終了後滋賀医科大学で予算を確保して発展させるという事であるが、この1大学のみでの予算化が可能かといった、事業終了後の自走化に関する記載に乏しい。	本プログラムは地域と連携しており、法医実務の他に法医学に関する臨床医学や先進的な取り組みを実践できる。したがって、Research questionを見出す機会が十分にあり、さらに3校が互いに補完した専門性を有することで解決に向けた指南を行える。3校とも、関連分野で相応の業績があることから、先行研究を基にした課題を共有することで、さらなるresearch mind の涵養につながる。キャリアパスでは、3校の教員ポストの他に、滋賀医科大学で新たに確保される教員ポストを有効利用する。本プログラム終了後も滋賀医科大学の教員ポストを継続して確保することは、滋賀医科大学学長が認めている。そのほか、監察医事務所、死亡小票を扱う保健所、法医学に関する臨床医学を実践できる矯正医療現場などでポジションを確保することが可能であり、地域をあげてプログラム修了者が活躍できる場を確保する。
データベースの共同作成・利用等、選定大学間での連携についても検討すること。	選定校である金沢大学では医歯工法連携による人材育成に取り組むとされている。当方でも滋賀医科大学の教授が工学部の客員教授や非常勤講師を務めるなど、医工連携教育及び研究に従事している。したがって、特に医工連携教育等については、質向上に向けた取り組みについて金沢大学と情報交換を行い、教育内容のブラッシュアップに役立てたい。